特集 2

中国事業で成し遂げたい貢献

背景

漢方製剤の研究・製造で培ったコアコンピタンスを核にして、中薬業界の発展に貢献する

ツムラグループの持続的な成長には、原料生薬の一大生産地であり、同じく生薬を原料とした飲片や中成薬を用いて治療を行う中医学が深く根づいている中国とのパートナーシップが不可欠です。

中国では、西洋医学と中医学の医師免許や医学教育は別建てとなっており、いずれも人々の健康にかけがえのない役割を果たしています。一方、日本の免許制度や教育は、明治初期に西洋医学へシフトしています。したがって、漢方製剤が治療選択肢の一つとして重要な地位を確立するには、西洋医学のフィールドで有効性や安全性を証明する必要があります。そこで、当社は長年にわたって漢方薬の基礎・臨床研究を重ね、エビデンスを構築することで、日本での普及・発展に貢献してきました。その結果、現在の当社グループは、バリューチェーン全体で天然物から高品質な医薬品を製造する技術を蓄積しています。それが今後、中国市場での事業展開を可能にするコアコンピタンスになると捉えています（下表参照）。

日本の漢方市場の約60倍もの中薬市場を持つ中国でも、西洋医が中医治療への理解を深め、互いの長所を活かし合う医療の実現が近づいています。だからこそ当社のコアコンピタンスは、中薬業界の発展の推進力の一つと、当社グループを成長に導く原動力になると確信しています。

漢方バリューチェーンと中国事業における強みの発揮

	漢方バリューチェーン				
	生薬栽培・調達	生薬加工	製造	流通・販売	処方・服用
生物由来・多成分ならではの課題	●自然災害等による不作・生育不良 ●品質（成分、性状）のばらつき ●外来性不純物質（農薬、重金属、微生物、カビ毒）汚染 ●生産者の特定	●温度・湿度による品質（成分、水分）変化 ●外来性不純物質（微生物、カビ毒）汚染 ●異物・不良品混入 ●不定形品の選別	●温度・圧力・湿度による品質（成分、水分）変化 ●外来性不純物質（微生物、カビ毒）汚染 ●成分ばらつきに対する均質性の確保	●温度・湿度・光による品質（成分、水分）変化	●臨床エビデンス創出の困難性 ●作用メカニズム未解明
解決手段↓ツムラの強み	●産地会社、生産者との信頼関係 ●産地複線化 ●ツムラ生薬GACPによる生薬生産プロセスの標準化（品質、不純物、トレーサビリティ）	●GACP・GMP管理 ●品質試験ノウハウ ●社内規格・自社基準による安全性の確保 ●生薬AI自動選別機	●GMP管理 ●品目別の温度・圧力制御による成分変化抑制 ●社内規格・自社基準による安全性の確保 ●生薬の調合自働化・最適化	●GDP（保管・輸送環境）管理 ●特殊素材による防湿・遮光包装	●KAMPOmics®を駆使した個別化医療の科学化、作用エビデンス創出
	←デジタルや最先端技術でさらなる強みの強化、トータルで唯一無二のノウハウ→				
中国事業における強みの発揮	原料生薬				
	飲片				
	中成薬				
	←日本の漢方薬と同様のバリューチェーンでの中成薬が最も強みを発揮できる→				

価値創造

生薬・製剤・研究の3つのプラットフォームで、現地の生産者や医師、患者様との価値共創基盤を構築

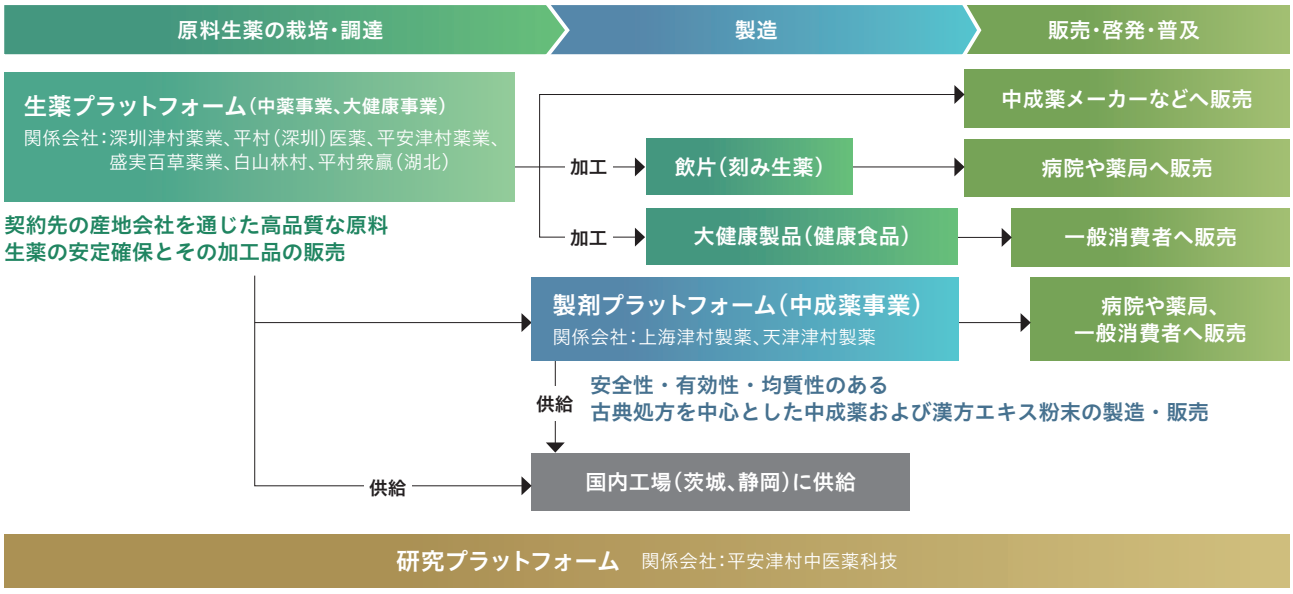
中国事業では、現地との価値共創のために、生薬・製剤・研究の3つのプラットフォームを構築しています。

「生薬プラットフォーム」は、日本および中国事業で使用する原料生薬の栽培、調達、選別加工、保管と、中国での原料生薬、飲片や大健康製品*の製造・販売機能を担っています。原料生薬については、中国全土に自社管理圃場を保有しており、高品質な生薬を栽培・調達しています。並行して、中国国内を中心に原料生薬の外販を進めてきました。また、中医学での個別化治療に不可欠な飲片は、販路の開拓を図っています。飲片の均質性や携帯性を高めた加工代行サービス「一人一方」の普及にも注力しています。

現在、中成薬製造の基盤となる「製剤プラットフォーム」と、中成薬の開発、研究を担う「研究プラットフォーム」の構築も、鋭意進めている段階です。これらの基盤構築によって、中薬業界の課題解決に貢献しながら、現地の医師や患者様との信頼関係を醸成していきます。

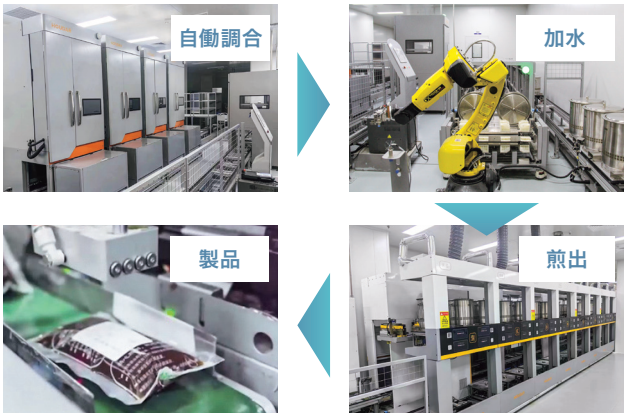
*栄養食品、機能性食品、保健製品など

中国事業の3つのプラットフォームの構想（2025年3月31日時点）



飲片付加価値サービス「一人一方」の拡大

2020年にスタートした「一人一方」は、飲片を煎じ液、流エキス、顆粒などの剤形に加工・包装することで、患者様が自ら煎じる手間を省く加工代行サービスです。保管・携帯性の高さが医師や患者様から評価され、リピート率が高まっています。スマートファクトリー設備での飲片加工の均質性や安定性、剤形の多様性を医師に訴求し、中国の病院を介したサービス提供にも注力していきます。



Co-COO（中国総代表）メッセージ

展望

中国国民の健康に貢献し、信頼される中薬企業を目指します

戸田 光胤
Co-COO（共同最高執行責任者）
中国総代表

中国事業はツムラグループにとっての成長ドライバーであり、50年～100年先を見据えた最重要戦略の一つでもあります。当社グループが国内の漢方ビジネスで培った品質・技術・経験と、中国平安保険グループが保有する顧客基盤などをかけ合わせることで、中薬業界の発展と中国国民の健康へ貢献することが、中国事業の目的です。また、高品質な原料生薬の安定調達・供給も、私たちの大切な使命です。もともと野生品を調達していた甘草（カンゾウ）という生薬については、中国企業・大学との共同研究で栽培技術を確立し、甘粛省で大規模栽培を実現したことは、大きな成果だと自負しています。

2024年度は、当社グループの調達する高品質な生薬の価値を訴求し、原料生薬を中心に販売数量が増加した結果、中国事業の売上高は前年度比約10%増の206億円となりました。

そして第2期中期経営計画では、事業規模の拡大と収益力の向上に向けて、飲片を中心とした販売拡大を目指します。GACP管理され、トレーサビリティの確保された高品質な飲片の種類と量の拡大に加え、販路に強い飲片企業との技術・業務提携を計画しています。2025年6月には、上海虹橋中薬飲片有限公司（以下、虹橋飲片）の持分取得に関する契約を締結しました。虹橋飲片は、上海エリアで有力な販路を有する飲片企業です。同社の販売力を基盤に、ツムラの高品質な生薬やエビデンス研究の蓄積、「一人一方」の製造ノウハウ・経験を融合することで、虹橋飲片が販売する飲片の品質と利便性の向上による事業規模の拡大を目指していきます。

また製剤プラットフォームにおける中成薬事業への参入に向けては、過去にもさまざまな中成薬企業と提携の検討や交渉を実施してきました。当社との提携を希望する声を多くの企業からいただいており、当社からお声掛けしている企業を含め、それぞれに対して慎重に検討、交渉していきます。当社にとって、中成薬事業参入と基盤構築は第2期中計における重要テーマでもあることから、引き続き中成薬企業と粘り強い交渉を行っています。

研究プラットフォームにおいては、中国政府による古典処方の開発や高品質な中薬の開発を推進する方針に沿い、従来の古典処方開発に加えて、大学や中薬の専門家と協力し、中成薬の新薬開発、上市なども視野に入れています。中薬の薬効を認める西洋医が年々増加しており、「中成薬の処方の約8割は西洋医によるもの」という調査結果もあります。その結果、中薬のエビデンスが求められるようになってきています。当社の漢方製剤の強みは、GACP管理下で高品質生薬を確保し、かつ製剤の均一性を実現する製造法にあります。こうした特徴は、中国国民が薬剤に求める安全・安心の志向に合致し、特にロット間でばらつきの少ない製剤は、臨床試験に大きなアドバンテージとなります。

また、自然環境の保全についても、どの企業よりも大切に考え、環境に配慮した生薬の栽培技術の開発を進め、持続可能な生薬栽培を追求していきます。生薬栽培や加工を通じた新たな雇用の創出や生産者の生活の質の改善など、地域社会への貢献も重視しながら、ステークホルダーから広く認知・信頼される中薬企業を目指していきます。

今後は中国においても、急速に少子高齢化社会が進行していくと推計されていることに加え、中国政府は中薬の発展を目指し、中成薬の標準化や品質管理体制の強化を推進しており、中薬市場は今後も拡大していくと見込んでいます。引き続き、中国事業における提携先である中国平安保険との関係を維持・強化していくとともに、当社の創業者である津村重舎の「良薬は必ず売れる」という信念を胸に、当社グループが持つサプライチェーンの強みと経験を最大限に活かしながら、中国市場に高品質な製商品を提供していきたいと考えています。そして、中国で認知・信頼される中薬企業となり、中国国民の健康と、より豊かな未来に貢献していきます。

FOCUS 中薬市場の特徴

中薬の分類

中薬は、およそ2,700年前から中医学で扱われている薬の総称です。漢方薬と同様、自然界にある植物や動物、鉱物などを原料に用いて製造されています。中医学は古典の理論に基づきながらも、時代ごとの流行病などを検証し、新たな治療法を取り入れてきました。その結果、多くの処方が生まれ、絶えず新しい中成薬が開発されています。

中薬には、医薬品の分類として「中成薬」と「中薬飲片」があります。また、養生（予防）を目的として生薬を使った健康食品などもあります。

中薬市場の動向

中国の中薬市場は日本の漢方・生薬市場の60倍以上の規模で、約16兆円あります。そのうち、中成薬市場は約11兆円、原料生薬・中薬飲片市場は約5兆円です。中成薬は古代から現代までの処方を製剤化し、中国では約9,000処方が承認されています。そのうち、中国薬典[*1]収載処方が約1,600処方あり、古典由来の処方[*2]が約300処方含まれています。中薬飲片は中薬材を修治加工[*3]した臨床に使用される中薬で、よく使われるものとして約600種類があります。

なお、中国政府は政策として古典処方に基づく中薬を重点的に開発し、中薬の研究開発や品質レベルの向上を支援・強化する方針を示しています。中成薬メーカーは約2,400社あり、中薬市場の集中度はそれほど高くありませんが、企業グループが次第に形成されてきています。

*1 中国国家薬品監督管理部門により公布され、国家により薬品品質を保証し、かつ人民による薬物使用の安全性と有効性、品質制御性を保証するために制定された薬品法典
*2 清朝時代以前に編纂された古医書に記載されている処方
*3 蒸す、煮る、炒るなどの加工

出所：中国工業情報化部、中国国家薬品監督管理局、中国統計局データより当社で作成
1人民元=20円で換算

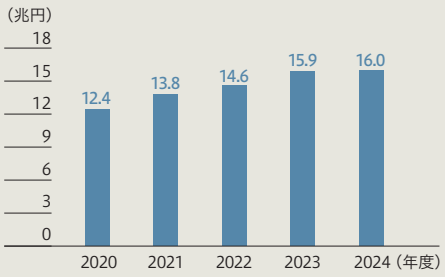
市場へのアプローチ

中国政府が掲げる「健康中国2030」では、現代医学と中国医学の双方を重視し、中薬生産の規範化、規模化を推進することが発表されています。中薬の中でも中成薬の発展において、鍵となるのが「標準化」であり、中国政府も中成薬の標準化を課題として捉えています。そこでツムラグループは、漢方事業で磨いてきた安全性・有効性・均質性に関する技術やノウハウを活用することで、中成薬の標準化を実現し、中薬業界の発展に貢献したいと考えています。

また、中国政府は生薬の品質やトレーサビリティを重視する政策を発出しており、GACP管理され、トレーサビリティが確保された原料生薬による中薬材、飲片の需要はますます増加していくと予測されます。当社グループでは高品質な生薬を用いた付加価値の高いサービスを提供することで、中国国民の健康に貢献していきます。

中国事業の製商品・サービスラインナップ

中薬市場の推移



※1 1人民元=20円で換算
※2 中国工業情報化部、中国統計局データ